

# ARTS for HOPE

宮城チーム活動報告書 2013年7月31日

## 仙台・東長町児童館「チョークでお絵かき」

7色を揃えたチョークを手に、子どもたちは描きたい場所へと次々と移動します。いつもなら車が止まっている場所もスペースをあけてもらって、そこにしゃがみこんで絵を描き始める子どもたち。児童館エントランスのコンクリートの壁面も絵を描く場所へと大変身です。

はじめは線で形をとるだけだった子どもも、色を塗りつぶし、色を重ねると美しくなることを見つけだし、どんどんと作品はできてゆきました。

コンクリート面だけではなく、マンホールの蓋や、点字ブロック、駐車スペースの白い線もどんどんと絵を描く場所へと変身してゆきます。

車いすマークは鳥になり、白い線は、模様が描かれ、淡い虹色に塗られ、それぞれに描くチームもできて、それは仲良くなったり、いざこざが発生したり。ひとり黙々と作品を仕上げている男の子は、集中し過ぎたせいか、「疲れたあ」と溜め息をつきながらも、最後までチョークを手にしていました。

点字ブロックの丸いでこぼこの周りをきれいな模様仕上げに仕上げゆく女の子たち。

入口のスロープを、場所を区分して手でのばしつづ塗りつぶしていくチーム。

マンホールにたまった水にチョークを溶かし、色別のくぼみをつくっている子どもたちもいます。

ほとんどのチョークを使い切ったところで、お絵描きはおしまいの合図。

その後、惜しみながらも、それを水で流す作業になったのですが、ホースを持つ子。ジョーロで流す子。バケツに水を汲んでくる子。すべてが「次、わたし！」の順番待ちの状態に。

デッキブラシでのゴシゴシもブラシの奪い合いになるほどで、後片付けすら、子どもに大人気のワークショップとなりました。

